

# 第 2 章

## これまでの取り組みと課題

### 1.これまでの取り組みの状況

#### (1)公園・緑地の整備

##### ①都市公園の整備・管理

都市公園は222箇所、150.69haが整備されています。都市公園の面積水準は、11.5㎡/人で、全国平均(10.7㎡/人 令和2年度)を上回り、千葉県平均(7.05㎡/人 令和元年度)を大きく上回っています。

都市公園の整備量は、平成10(1998)年度時点で171箇所、82.11haであったことから、23年間で、都市公園が51箇所、面積として約68ha増加しました。増加した面積の大半は利根川ゆうゆう公園の整備によるもので、平成21(2009)年度以降は微増にとどまっています。

また、住宅地開発に伴って整備された0.1ha未満の小規模な都市公園が多くあるほか、整備から30年が経過した公園が約7割を占めており、老朽化した施設の修繕や更新が必要となっています。

このほかに、平成27(2015)年度から2年間、手賀沼遊歩道や公園などに桜の植樹費用の寄付を募集する「さくらプロジェクト」を実施し、約230本を植栽しました。

さらに新たな試みとして、都市公園法の改正に伴い創設された公募設置許可制度(Park-PFI)を活用したオープンカフェが令和4(2022)年に手賀沼公園に整備されました。また、令和2(2020)年度に新型コロナウイルスの感染拡大によって営業の影響を受けている飲食店に販売機会を提供するため、社会実験としてキッチンカーの出店を実施しました。このような取り組みは、公園の利用促進や新たな公園の魅力づくりに相乗効果をもたらしています。

#### ■都市公園の整備状況

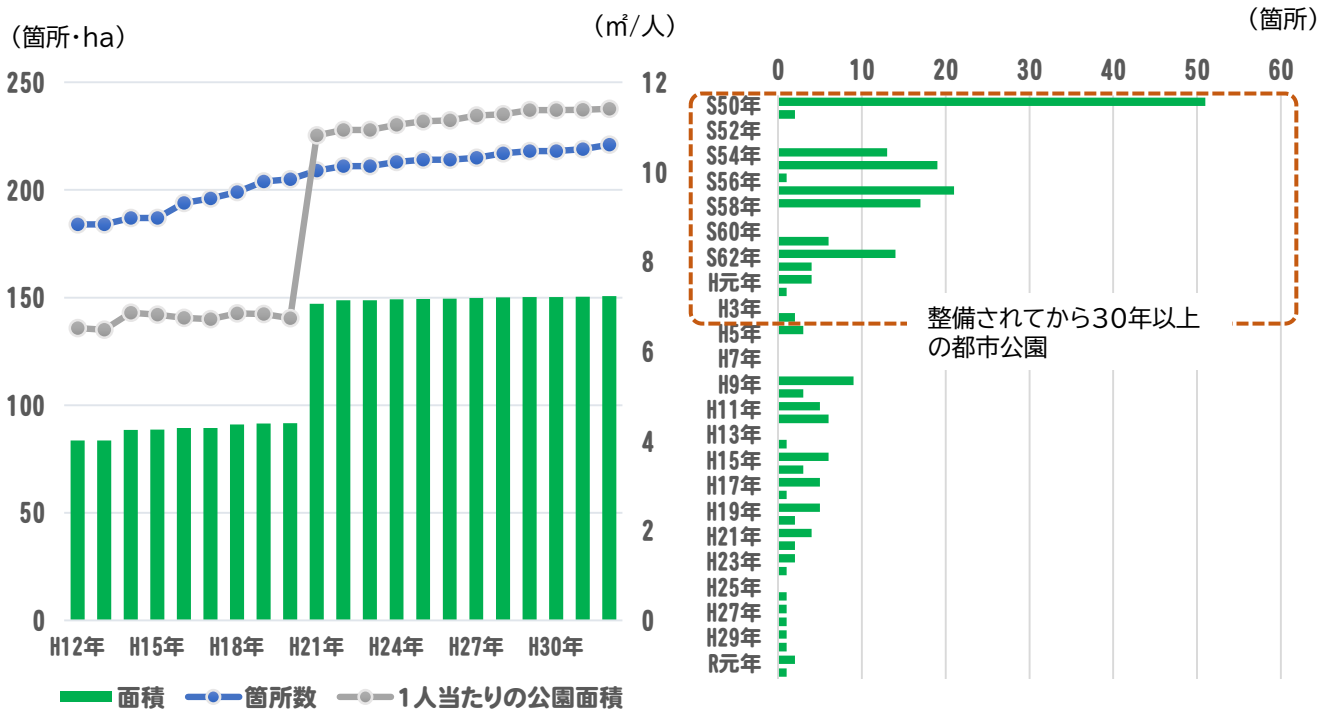
種別	箇所数	面積(ha)	主な公園名	
住区基幹公園	街区公園	177	18.91	つくし野4号公園、我孫子古墳公園、天王台南公園、柴崎台東公園、西屋敷公園、湖北台7号公園、新木薬師台公園、平和台1号公園、余間戸公園など
	近隣公園	8	12.23	柴崎台中央公園、天王台西公園、湖北台4号公園、宮ノ森公園、中峠亀田谷公園、布佐南公園、南新木沖田公園、高野山桃山公園
	地区公園	3	14.20	手賀沼公園、湖北台中央公園、气象台記念公園
特殊公園	風致公園	2	5.90	五本松公園、古利根公園
都市緑地		31	94.00	利根川ゆうゆう公園、根戸船戸緑地など
緑道		1	5.45	手賀沼遊歩道
合計	222	150.69		

(R3年度未現在)

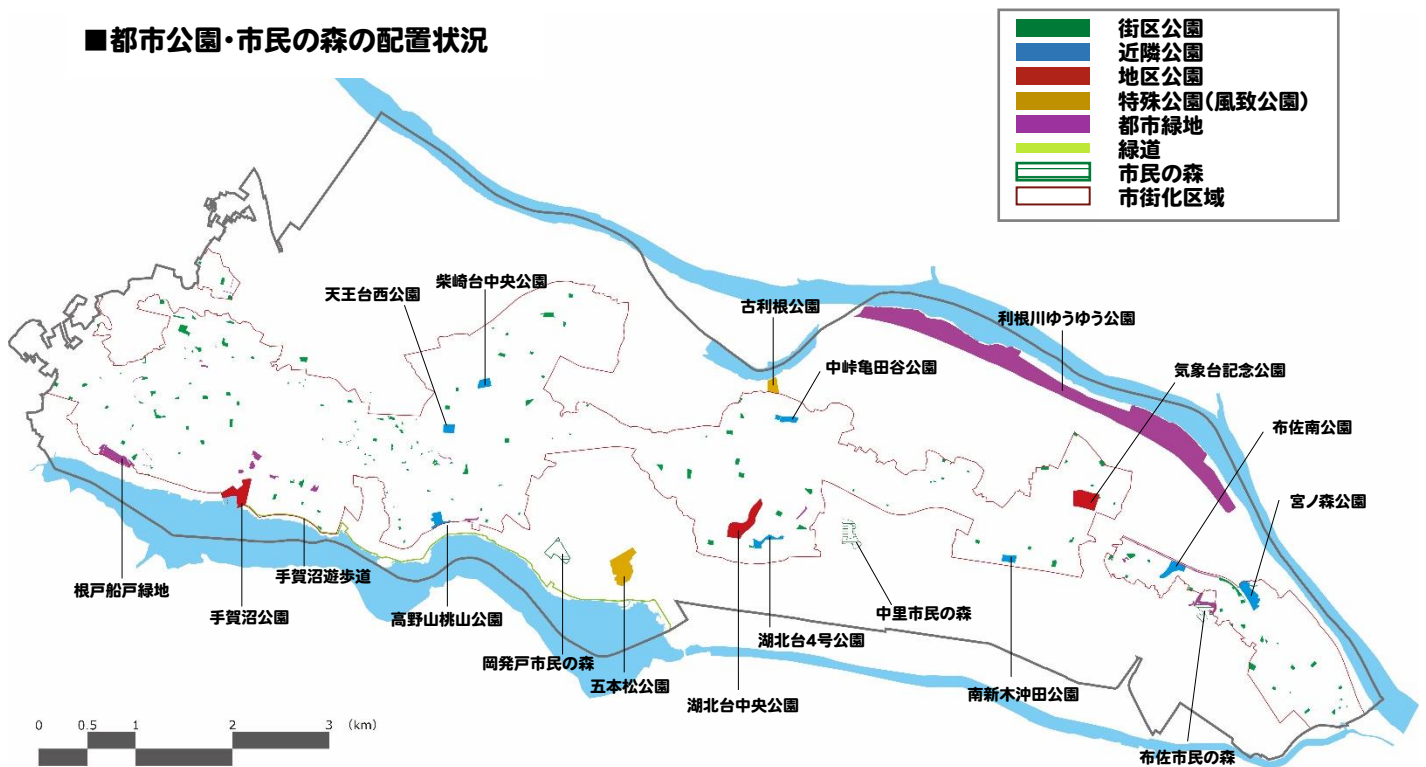
②その他の緑地の整備

都市公園以外の公園・緑地は、市民の森を3箇所設置しているほか、子どもの遊び場、運動場・運動広場などがあり、市民のレクリエーションや憩いの場として利用されています。

■都市公園の整備の推移



■都市公園・市民の森の配置状況



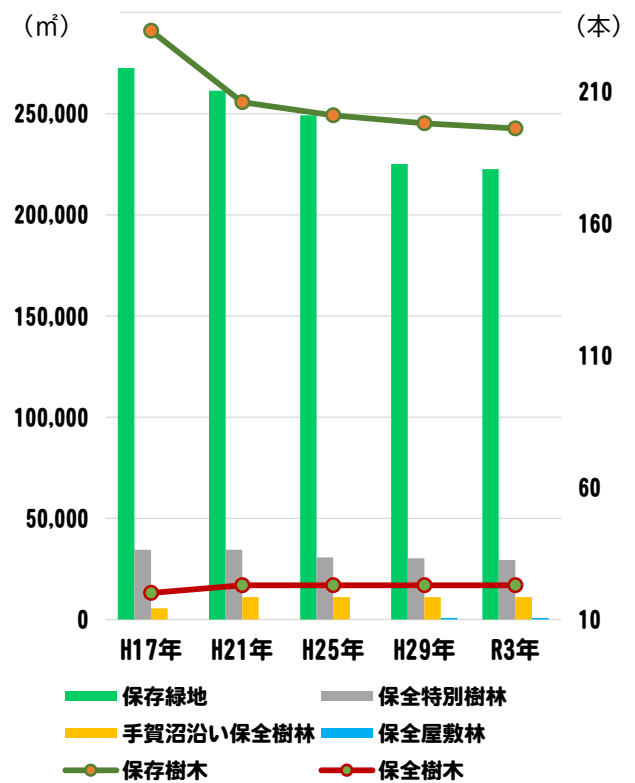
## (2) 樹林地・樹木の保全

樹林地を保全するために、都市緑地法に基づく「特別緑地保全地区」、条例に基づく「保存緑地」「保全特別樹林」「保全樹林」「保全屋敷林」を指定しています。しかし相続や開発などによる指定解除もあり、指定面積は年々減少しています。

また樹木を保全するために、「保存樹木」「手賀沼沿い保全樹木」「景観重要樹木」を指定していますが、腐朽などにより減少傾向にあります。

→P81

■条例に基づく指定緑地等の推移



## (3) 農地の保全

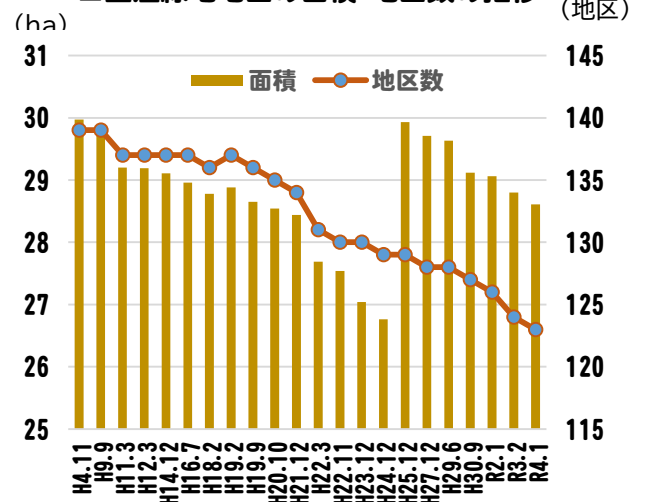
農地を保全するために、手賀沼・手賀川沿いと利根川沿いの農業振興地域内に農用地区域が広く定められています。

市街化区域内の農地を保全するために、生産緑地地区が123地区、28.61ha(令和4年1月)を指定しています。

生産緑地は、当初(平成4(1992)年)は、139地区、約30haを指定しましたが、相続などで面積、地区数とも徐々に減少しています。

また、平成19・22・25年に追加指定を行っています。

■生産緑地地区の面積・地区数の推移



## (4) 緑化の推進

緑豊かなまちなみの形成を図るため、都市緑地法に基づく「緑地協定」が、6地区において締結されています。

■緑地協定締結地区

地区名	面積
エールの丘	2.31 ha
シティア	4.13 ha
コスモアベニュー我孫子けやきの丘	1.19 ha
布佐平和台	27.02 ha
グラン・レジデンス	3.82 ha
アクア・レジデンス	2.14 ha

## (5) 緑の市民活動

### ① 緑の市民活動の状況

#### ● みどりのボランティア

平成 11(1999)年から、古利根沼とその周辺の保全・活用を図る事業の一環として、ボランティアが組織化されました。

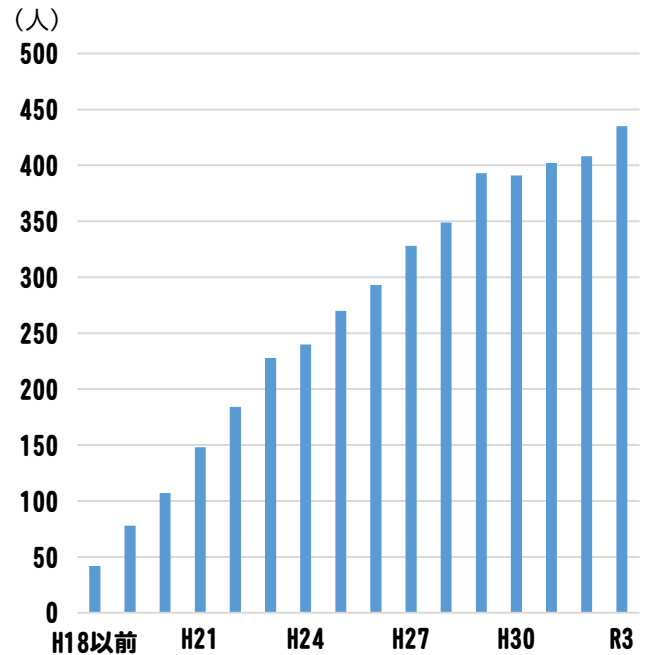
平成 15(2003)年には市民花壇事業が開始され、本格的に市民との協働による緑の活動が始まりました。

平成 19(2007)年、公園及び緑地におけるボランティア活動や市民花壇、地区緑化活動を「我孫子しみどりのボランティア」と総称し位置づけました。

現在、みどりのボランティアとして、435 人が活動しています。

平成 28・29年に「みどりの愛護」功労者として、市内 9 団体が国土交通大臣表彰を受賞しました。

■ みどりのボランティアの人数の推移



#### ● 市民手づくり公園

平成 12(2000)年度から、身近な公園(街区公園)を市民との協働で、地域のニーズにあった特色のある公園としていく活動を支援する、「市民手づくり公園」事業を開始しました。

現在、10 団体(12箇所)が活動しています。

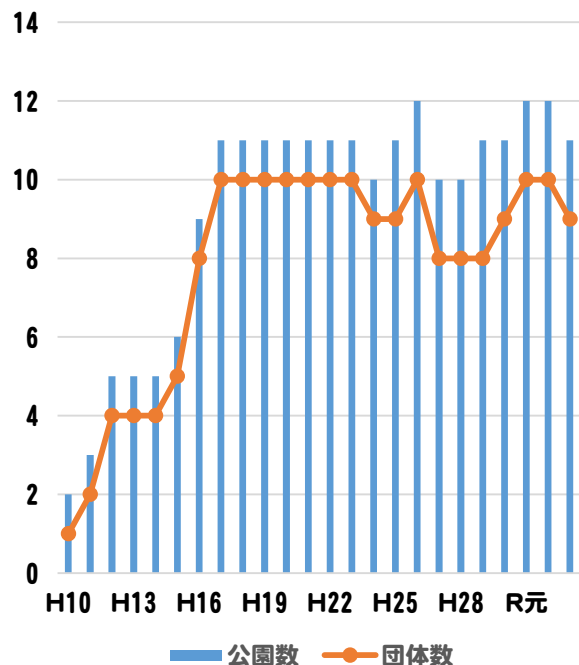
#### ● 里山づくり活動

地域の樹林地を手入れする里山づくり活動など、緑を守り育てる自主的な活動も少しずつ広がっています。

手入れされた樹林地は、人々にやすらぎを与えるとともに、防犯の効果も期待できます。

■ 市民手づくり公園の数と団体数の推移

(箇所・団体)



## (6)前計画の達成状況

前計画で掲げた緑づくりの目標水準に対する実績から、達成状況をまとめます。

### ●緑の量に関する目標(公園・緑地や指定緑地の面積など、制度に位置づけられた緑の面積)

- 緑の確保量は、市域の約37%(1600ha)を目標としていましたが、前計画からほとんど増加していません。
- 指定緑地の面積は、40ha の確保を目標としていましたが、指定の解除などにより計画当初の面積を下回りました。
- 都市公園の面積は、158ha を目標としていましたが、1.42ha の増加にとどまりました。

	H25(2013) 年度時の状況	目標 (R4(2022))	実績 (R4(2022))
緑の確保量	1564ha	1600ha	1565ha
指定緑地の面積	29ha	40ha	26ha
都市公園の面積	149.27ha	158ha	150.69ha

### ●市民の緑づくりに関する目標

- みどりのボランティアの登録人数は、目標の 400 人に対して 435 人となり、目標を達成しました。
- 市民手づくり公園は、高齢化により撤退する団体があるなど、最終的に活動団体が10団体、公園が12箇所にとどまっています。

	H25(2013) 年度時の状況	目標 (R4(2022))	実績 (R4(2022))
緑の講習会の受講者数	150人	250人	見直し
みどりのボランティアの登録人数	240人	400人	435人
市民手づくり公園の数	11箇所	25箇所	11箇所
市民手づくり公園の活動団体数	9団体	20団体	9団体

### ●緑の満足度に関する目標

- 「自然環境の保全・活用」「公園・緑地の整備・充実」に対する満足度の目標は、いずれも前計画から大きく後退しました。

	H25(2013) 年度時の状況	目標 (R4(2022))	実績 (R4(2022))
自然の保全・活用に対する満足度	53.9%	65%	34.1%*
公園・緑地の整備・充実に対する満足度	48.6%	60%	34.5%*

※…「我孫子市総合計画に関するアンケート調査報告書(R2.4)」による

## 2.計画の課題

社会情勢の変化やこれまでの緑の取り組みを踏まえ、計画の課題を整理します。

### ●バラエティに富んだ我孫子の豊かな自然環境を守っていくこと

- 手賀沼、利根川、古利根沼などの水辺や斜面林、農地などの多様な緑を我孫子の魅力をつくる資源として、子や孫の世代へと継承していくこと
- 大規模な緑の増加は困難なため、今ある緑を残し、適切に管理していくこと

### ●安全で安心できる暮らしを支える質の高い緑を確保していくこと

- 地震や水害などの災害や感染症などのリスクに、緑の面から対応すること
- 生きものの生息や生育、環境負荷の低減など、持続可能な環境づくりに貢献すること
- 公園利用の実情にあわせた適正な公園配置や機能の確保とともに、老朽化への対応、維持管理の充実を図ること
- 公共事業や民間事業において質の高い緑を身近に確保し、維持すること

### ●身近な暮らしの中で緑とのかかわりを増やしていくこと

- 我孫子の緑のポテンシャルの高さや豊かさをより実感できるよう、さまざまな利活用を進めると
- 身近な暮らしに緑の機能を活かしていくこと
- 市民のニーズやライフスタイル、ワークスタイルの多様化に対応し、子育てや教育など、若い世代にも共感できる取り組みを進めること

### ●緑を介した人と人のつながりを活かし、持続可能な仕組みづくりや取り組みを進めること

- 健康寿命を延ばし、だれもがいつまでも元気で、楽しく、生きがいのある暮らしを送ることができるようになること
- ボランティアなどの緑の市民活動を継続させ、また意欲のある人が活躍できる環境をつくること
- 市民が自主的に緑を守り育てる活動を育成していくこと
- 活動する複数の団体が、互いに協力し合える新たな仕組みをつくること
- 事業者や団体、学校などさまざまな組織との連携を図っていくこと
- 公園などの施設の老朽化への対応や維持管理費の確保が厳しい財政状況のもと、効率的なまちづくりを進めるとともに、人的な資源を活かしていくこと

### ●我孫子の緑の魅力をさらに知ってもらうこと

- 緑の役割や機能を周知し、緑の機能を活かしたまちづくり(グリーンインフラ)の推進を図ること
- 我孫子の魅力や緑のある暮らしを市の内外に発信し、我孫子への愛着を醸成し、市民の定住と市外の人々の移住促進に結びつけていくこと